

平成 26 年度事業方針

平成 26 年度文化の家事業は、第 5 次総合計画及び 3 つのフラッグ（基本理念）に基づき、また第二次生涯学習基本構想も視野に入れながら、地域コミュニティの再生のため市民との協働によるまちづくりの推進を主要テーマと考えます（文化マスタープラン「住民参画支援事業」）。平成 25 年 4 月から行っている文化の家市民参画プロジェクトはその柱であり、市内各所・団体、教育機関との連携も強化します。また開館から 15 年間マスタープランに基づいて行ってきた質やオリジナリティを維持しながら、そのノウハウを市民との協働事業に活かします。これらを念頭に5 つの事業を中心に展開します。

（１）市民参画プロジェクト

1. ワーキンググループ（WG）
2. アイデンカフェ（IC）
3. ワークショップ（WS）
4. 舞台見学会・モニター制度

平成 25 年 4 月より始まったプロジェクト。WG は市民優先予約制度や大規模改修計画などの話し合いのプロセスや結果を内外に発信する。IC は、市民による具体的な企画制作実行を目的とする。桜まつりや市民まつりなどの行事と連携してギャラリーなどのフリースペースを活用する。WS は市民が多く交流する場、そして見学会・モニター制度は文化の家を知る場として提供する。

（２）市内団体との連携事業

1. アイデンカフェ（桜まつり、納涼まつり、市民まつり、冬まつり等への参加）
2. ながくてアートフェスティバル（市内のアトリエ・ギャラリー開放、リニモ、観光との連携）
3. 長久手“知”学（長久手の在住の知識人による座学）
4. 長久手応援ソング普及事業（イベント関連、小中学校、保育園、児童館など）
5. アートデリバリー、ふくしであーと（福祉施設関連事業所、在宅、共生ステーションなど）
6. マルシェ長久手（市内農家、JA、飲食店など）

市内の各施設や市民団体と連携して事業を進める。アイデンカフェは、市内の行事と連携する。そのほか長久手の知力（人材）を生かした長久手“知”学、福祉事業所と連携して高齢者や障害者と交流する「ふくしであーと」、長久手の農家や飲食店が文化の家ギャラリーで軒を連ねる「マルシェ長久手」など、地域の魅力を再発見しこれらの連携を推進することでまちづくりのためのネットワークを強化する。

(3) 学校連携事業

であーと（小・中）、おいであーと（保育）、小学校招待公演、小学校巡回指導、小学校吹奏楽交流コンサート、第10回吹奏楽フェス（中・高・大・一般）、演劇ワークショップ

学校連携事業では、市内に多く在住する芸術家と子どもたちとの出会いの場を提供し、教育とアートの関わりを深めるとともに、鑑賞やクラブ活動のスキルアップだけでなく、学校間の交流も促していく（小学校金管バンド交流コンサート）。また、これまで音楽中心だったアウトリーチだが、今後は演劇ワークショップも積極的に取り入れて行く。

(4) 劇場間の連携

1. ジョイントフェスティバル 武豊町、西尾市、稲沢市、幸田町など

演劇・音楽・海外招聘公演を県内の複数の劇場と共同で行う事業。地域の芸術家を支援し、かつ複数の劇場が連携することで制作面やコスト面で合理化を図る。平成25年度は4館が参加。長久手が先導的な立場で引き続き行う。

2. 音楽の壺（おんつぼ） 稲沢市、幸田町、多治見市、飛騨市、三重県など

県内外14の劇場が集まり、それぞれが企画を持ち寄り、情報やノウハウの交換、地元アーティストの紹介、劇場間の交流を図る事業。今回文化の家のオリジナル企画「こんにちは、アントン！」が多治見市で買い上げとなる。初の売上公演。

(5) 質・オリジナリティの高い事業

◎音楽

- ・名演への招待シリーズ ゲヴァントハウス弦楽四重奏団ほか

◎演劇

- ・それからの遠い国（太陽族）
- ・話劇団（香港）×B級遊撃隊

◎オリジナル

- ・おんぱく～音のテーマパーク（ファミリー向け）
- ・劇作家協会関連

文化の家は、この15年間に音楽や演劇などのさまざまな質の高い公演を行ってきた。これらは、全国あるいは世界的にみても先端・最高クラスのもので、全国から観客を集めて文化の家の格を示す内容だった。また、「おんぱく」や劇作家協会関連事業などは、文化の家のオリジナル事業として注目され高く評価されている。これらの事業は文化の家が聴衆と共に積み上げてきた業績として、今後も継続していく。